法人化の取組

富山県入善町（R5. 7時点）

組織名	（農）島（しま）（代表：藤田　保生）	農業地域類型	平地農業地域
経営理念	働きやすい環境で様々なことにチャレンジ	社員等	構成員45名、常時雇用2名
経営面積	58.6ha（水稲39.4ha、大豆18.8ha、サトイモ0.4ha）、イチゴ用ハウス１棟（600㎡）		

1. 経緯

・入善町新屋島地区では、熱心な水稲栽培が行われていたが、平成15年頃から、高齢化や地区外の担い手の入作により、自ら地区内の農地を守ろうという意識が薄れてきていた。

・**地区内の農業に危機感を持った農業者**が、平成16年１月に「農業ビジョン調査・研究会」（以下「研究会」）を立ち上げ、集落営農の体制作りについて検討を開始した。

　研究会が、「集落営農に関するアンケート調査」を行ったところ、集落営農により将来も農地が守れるなど期待する声がある一方で、共同出役体制に不安を持つ意見があったため、**出役を含めた営農体制と併せて法人化についても検討を重ねた。**

　検討の結果、地区の農業を継続させるには、**資金調達や農地集積の面からも法人組織が有効**とされたことから、平成17年３月に入善町等を交えた準備委員会を発足し、同年10月、（農）島を設立した。

・平成21年からサトイモ栽培と女性部による加工を開始して**周年作業体系の確立を図った**が、構成員の高齢化により出役が困難となった者が増えたため、令和元年に従業員１名（40代）を雇用した。

・**収益性を高めるため、令和３年からハウスによるイチゴ栽培**を開始し、令和４年に新たな従業員１名（20代）を雇用した。

　現在、58.6haの経営農地において、役員２名と若手従業員２名を中心に、水稲・大豆・イチゴ・サトイモの取組を行っている。

2. 課題と対策

・法人設立後約20年が経過し、構成員の高齢化により出役が困難となってきたため「みんなでやる組織からやる気がある者が担う組織」へ方針転換し、**利益を追求する株式会社への組織変更を検討**している。

3. 特徴的な取組や工夫していること

・**若手従業員にイチゴの取組を全面的に任せ**、水稲・大豆の作業の掛け持ちで忙しいながらも意欲を持って取り組んでいる。

　イチゴは収量や食味が良く、口コミで評判が広がっているため、さらに売上を伸ばし、**新たな雇用を図る際には、「イチゴを作りたい」、「農業は儲かる」等、若い人が希望を持てる法人になる**ことを目指している。

人気のイチゴ

・水稲と大豆はＪＡ出荷、サトイモは地元スーパーとの全量買取契約、イチゴは自社施設において直売にするなど、**品目ごとに採算性を踏まえた販売方法**にしている。

・毎月の作業計画と毎朝のミーティングで適期管理等を話し合って作業精度を高めている。

4. 今後の目標

・新たな従業員を雇用してイチゴを増産し、**消費者が「（農）島＝イチゴ」のイメージを持つような販売戦略**を立てる。

イチゴのハウス

サトイモのほ場

自社施設

従業員が丹精込めたイチゴ